

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆
小林国二・高橋潔・室賀清輝
高橋利春・屋代健・飯泉隆史
近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信
後援・株式会社アサヒ
印刷・(株)北越時報社

安善寺と中興開基・三輪家

翠巖 弘

平成十六年十月の中越大地震では、寺の土蔵も大規模半壊となり翌年、当時大本山總持寺に修行中の副住職と屈強の修行仲間数人に手伝いを願ひ、土蔵にあつたものを位牌堂下の半地下の物置に運んでもらいました。その後、忙しさにまけて整理もして

杉のかかれた漆塗りの茶湯器(上の写真)がありました。そこで安善寺と三輪家との関係を少し調べてみました。

安善寺は現在の千葉県

成田市伊能の長興院二世・長翁存宗和尚が当地に巡錫され、大勢の信徒の信頼を受け栖吉の普濟寺を曹洞宗に改宗された後、天文十二年(一五四三)に安善寺を曹洞宗として開創されました。

その前のことは資料もなく分かりませんでした。が、長岡の歴史に詳しいお

方のお話では、安善寺は北条家が開基で、現在地は北条家の出城、大沼城の跡地でそこに再建され、以前は違う場所です。曹洞宗に分かります。曹洞宗になつてからの歴史は今年(平成三十二年)で四百七十七年になります。

三輪家四代・大阪屋初代の三輪九郎兵衛盛直様(王山院殿天岩木意大居

士・寛永十七年(一六四〇)寂が中興開基(寺を再び興隆に導いた人)となられ、それ以後、安善寺の紋が「三ツ輪」(三輪)になりました。

また、安善寺廿世の時、三輪家十代・大阪屋七代、長泰様の寄進で坐禪堂を建立されましたが、残念ながら明治元年の戊辰の役で本堂共々焼失しました。また、箱の蓋の裏に書かれている写真のように、天保十年(一八三九)に盛直(王山院殿)様の貳百回忌の時、三輪家中興の祖、十二代・大阪屋九代の権平長凭様から寄進されました。この時代に現在の稲荷堂奥の院も寄進されたのではと思われます。

戊辰の役で土蔵や稲荷堂が焼失を免れ、昭和二十年の長岡空襲では山門以外は焼失をまぬがれ、多くの品々が残り、感謝し寺宝として守っていきたいと思っております。

【日々精進(四十四回)】

すべては人と人との出会いから

近藤 真弘

今年は昨年と打って変わって小雪の冬でした。雪掻きをする必要もなく、雪道の煩わしさもなく、過ごしやすい冬ではありましたが。月お経でも「雪が少なくて今年是有難いですねえ」と皆さん口をそろ

えてお話ししていました。しかし中には「雪が無くても大変だ」とおっしゃる方もありました。当然のことですが同じ出来事でもそれによって受ける状況は人それぞれです。話は変わって皆さん「我逢



麵(がほうめん)というものをご存知でしょうか？これは所謂インスタント食品の名称で、お湯を入れて食べる「うどん」と「おそば」です。大本山總持寺が監修して作っている食品です。

普通のこういったインスタント麵と違うのは、お寺が監修ということもあって、通常の動物性のものは使用せずに植物性の材料のみで出来ています。また、この商品の面白い特色として、お湯を入れて出来上がるまで待っているあいだ蓋の上に載っている紙の裏にミニ法話を書いてあり、それを読んでいる間に出来上がるという工夫がされているところですよ。

この「我逢麵」のネーミングですが、名前を見てピ

ンと来た方もおられるかと思いますが、禅語の「我逢人(がほうじん)」が由来であります。

「我逢人」とは「我、人との出逢い」つまり、人々人間は生まれてから生きていく中で様々な出逢いを重ねていきます。誰一人として出逢いなく生きていく人はいないでしょう。自分だけで考えて、自分だけで行動したのでは見つからないことがあります。その多くの出逢い一つ一つは自分にはない考え方、ものの見方、価値観があり、その違いに気づくことにより自分自身も成長していきます。修証義の教えにある「同事」は同悲同苦の教えです。つまり人の悲しみ、苦



しみに寄り添うことが大切だということです。すべては人と人との出逢いから始まります。冒頭の雪の話も、小雪によって有難いと感じる方との出会いしかなければ、小雪によって困る方の心に寄り添うことはできなかったかもしれません。自分自身を木に例え、出逢いの数だけ枝分かれする、その先になる葉っぱが「心」だとしたら、出

逢いが多ければ多いほど心が豊かになるのではないのでしょうか。

枝の無い木には葉っぱはなりません。私も今までの人生で数多くの出逢いがありました。また、今年の十月に安善寺の住職になるとまたさらに多くの出逢いがあるかと思えます。今後も一つ一つの出逢いを大切に、また多くの出逢いから成長していけたらと思います。

特殊詐欺の被害に遭わないために

長岡警察署生活安全課長 本間 浩信



オレオレ詐欺をはじめとする特殊詐欺の被害があつとを絶ちません。特殊詐欺の手法には、オレオレ詐欺、架空請求詐欺、融資保証金詐欺、還付金詐欺などの手口があります。長岡警察署管内では、昨年一年間で十一人の方が被害に遭い、被害総額は、約三千万円に

上りました。昨年発生した特殊詐欺の内訳を見てみますと、オレオレ詐欺5件、架空請求詐欺5件、融資保証金詐欺1件で、被害の大半は、オレオレ詐欺と架空請求詐欺が占めています。オレオレ詐欺は、子供や孫をかたって自宅の固定電話に電話がきます。

被害に遭われた方から話を聞くと、「オレオレ詐欺の手法は知っていたが、自分は絶対にだまされないと信じていた」という方が約八割でした。このことから、新聞やテレビで報道されている詐欺の被害を他人事と捉えている方が多いことが

その会話の中で、「会社の金を横領してしまった」、「不倫相手の女性を妊娠させてしまった」などと言つて、現金を要求したり、最近では、警察官を名乗つて電話をかけて来るケースもあり

うかがえます。

しかし、実際には詐欺と思われる前兆電話が、長岡市内にたくさんきています。その電話が今日にもご自分のお宅に架かつてくるかも知れません。電話で現金を要求されたら、その相手が身内であっても、警察官であっても詐欺を疑つて、周りの方に相談してください。犯人は「だましのプロ」で

すから、直接会話をしてしまうとすっかりだまされてしまいます。今は、「防犯機能付き電話機」が市販されています。この電話機に電話をかけると「この会話は録音されています」というメッセージが事前に流れます。犯人は、自分の声が録音されるのを嫌いますので、メッセージを聞いた犯人は、すぐに電話を切つてしまいます。このように犯人と直接会話をする機会をなくすことで、詐欺の被害を防止できるのです。防犯機能付き電話機、

詐欺の被害を防止する効果的なアイテムです。是非、ご購入を検討していただきたいと思います。

また、架空請求詐欺の手口も巧妙です。最近多いのは、携帯電話のメールを使い、大手通販サイトの名前をかたつて、「代金未納」と言つて実際には購入していない商品の代金を請求してきます。コンビニの電子マネーを購入させ代金を支払わせる手口です。さらに、今年は元号が変わりますが、「キャッシュカードか使えなくなる」などと言つて、今使っているキャッシュカードを受け取り、暗証番号を聞いて口座から現金を引き出すという詐欺も発生しています。

その電話、本当に大丈夫!?

「犯罪者と話したいですか?」と聞かれたら、答えは当然「いいえ」最近の振り込め詐欺の犯人は、家にお金やキャッシュカードを取りに来ます。電話で「アンケート調査」などと誘って、あなたの家族構成を聞き出します。そんな電話に出る必要がありますか? 電話の機能を活用して自分自身や大切な家族を守りましょう。

「二セ電話に出ないで被害ゼロ!」

相手はだましのプロ! 電話に出ちゃダメ! ストップ! 振り込め詐欺 撃退! 振り込め詐欺 不審電話は電話機の機能で撃退!

詳しくは図鑑をご覧ください

新潟県警察 × Panasonic

犯人は、日々、手口を変え現金をだまし取ろうとしていますので、被害に遭わないよう注意してください。

世界は日本をどう見ているか

長岡市国際交流センター長 羽賀友信

皆さんは長岡市の米百俵の思想が世界に広がっていることをご存知でしょうか。中米のホンジュラスという国では、食えないからこそ教育を通して人材を育成し、まちが興り、国が興るというところ注目して国立劇場で米百俵劇の上演を行いました。また、この話を紹介してくださったのは、元ホンジュラス大使の竹元正美さんです。

虎三郎役のホセさんは国際交流基金で日本に留学し、国立劇場で演劇を学んで帰りました。この演劇集団には大統領のお嬢さんも参加されていました。

また、ODA(政府開発援助)の一環として米百俵スクールが開校され、2017年の段階で124

校に至りました。東京で祝賀会を開きましたが、そのときには小泉元首相も駆けつけてくれました。南アジアのバングラデシュでも米百俵の思想が広がっています。国立アカデミーのシルパカラ

演時の衣装を支援したすわらじ劇団をとおしてバングラデシュに紹介された結果です。

西アフリカのガーナ共和国でもこの思想が広がっています。私の友人でオーガスティン・アウニ

というガーナ人がいます。彼は学校のない町に生まれ、親戚を頼って小学校に入学しました。天才と呼ばれ、大学まで6回の飛び級を繰り返して

国のトップの学生になりました。一番でないと奨学金がもらえないため、「これしかない」という哲学で頑張ってきました。

国のアカデミーに勤めたのですが、大学院に行くことを勧められ、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学、ジョンズ・ホプキンス大学に合格し



ましたが、もう一つ合格した浦佐の国際大学に来了ました。その理由は、資源のない日本が教育をとおして世界のトップの経済大国に躍り出たことに学びたいと思ったことです。

浦佐で出会った米百俵の話に興味を持ち、長岡に来て大学で教鞭をとっていました。自分の出た村に小学校、中学校を建設し、運営をしましたが、そこから国のトップクラスの学生が何人も育っています。ガーナは野口英世の終焉の地ですが、自分が生きているのはその

ワクチンのおかげだとも言っています。ちなみに52人の兄弟のうち生きてるのは2人だけです。私たちは城はないけど思想のあるまち長岡に生きています。次世代の子どもたちが人生に悩んだり、壁にぶつかったりしたときは米百俵の思想を頼りにできるように、この精神を伝承していく必要があります。

また、私たちは途上国の国づくりの精神ともなる大きな宝物を持っていることを自覚する必要があります。

社会と自分

武石将典



昨年、父の終わりに父を亡くし、今迄の父の苦勞を知りました。この大變さを知るとともに、育ててもらい、教えてくれたことに感謝しています。

店に関しては、色々苦勞しながらも頑張っています。また、自分の役割として現代感を取り入れつつあります。

どうやって洋菓子と共存するか、また、今の時代は多文化の時代です。クールともいわれていますが、この中で和菓子の中身を引き出すには、いつも考えています。大事な餡子の味を失ってはいけません。また、和菓子とは何かと分かるように考えていないといけないと思います。

頑張っています。

葬式の時に、仏教のお経を聴きまして思ったのが、戒めが強いのではということでした。聖書の話は知っていますが、仏教となるとあまり知らない。だけど、そこで思ったのが、どうやって仏教の意義を取るべきなのか。私たちには身近にあるもので、自然と考えることができました。

キリスト教の教えとして愛がありますが、この愛の達成のために御父が



らの教えがある。良心を持ち戒めながら生きることに。また、社会との共存の中で理性を持ち、葛藤すること。統治の問題でもありますが、この理性が達成されたときに土着的な戒めが通用するのではと考えました。

贖いと言いますが、キリストを通し御父に感謝すること。御父の御心が適うこと。これにより宇宙と地球の摂理が生じ、終わりの時を迎える。このように考えて仏教が教



えとして生きると良いと思います、生きることの大変さと先人たちの苦勞を思い感謝しました。

グローバル時代の中で店をするにもエクソシストとして影響がある時代。

バアル信仰などと言われていることを思い出しましたので、バアルが神の天敵であり、貿易、富裕の神と偶像崇拜の極みとして取り上げられていたことです。これに対する一信教の強さ。御父に立ち返ることの必要性。担保を誰もが持っているキリスト教の精神。キリスト者として生きることによ

り担保が活きる。そして、永遠の命を授かる。解脱でしょうか。この精神が生きることににより働いて食べて、趣味に興じることができ。

自発的な施しといういう一節がありますが、働き差し、そして日本を知り、人が来てくれる。仏教も知る。また、共生する。

御父が見ている。担保が活きる。その中で生きることは大変ですが、これから頑張らないと思っています。身が引き締まる一ヶ月でした。

皆様のご多幸を願っています。

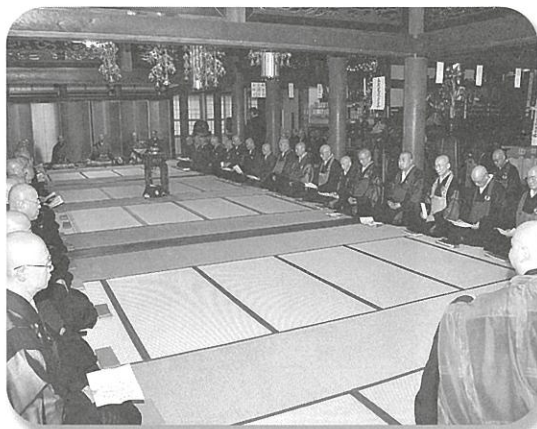
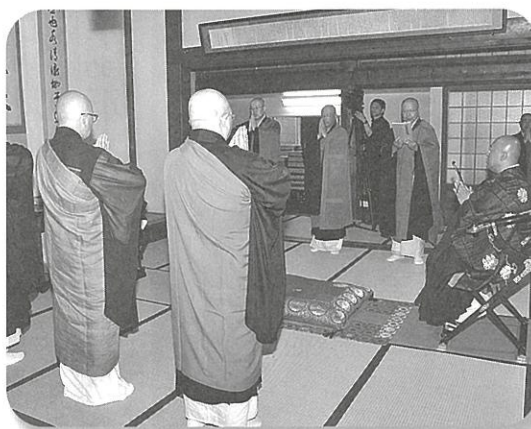
10月5日(土)の諸法要

しゅそにゆうじしき
首座入寺式

本堂を坐禅堂に見立て、この度の制中(集中的な修行期間)の第一座を勤める市内妙喜寺 諸橋健太和尚が、諸役の和尚に決意を述べて安善寺に正式に入寺する儀式。

どちどうねんじゅ
土地堂念誦

この度の制中期間が無事に終わるよう土地神(寺院を守護している諸々の仏さまや神様)に祈念する法要。普段の本堂の正面でなく東序に土地神牌を祀り法要を厳修する。

ほんそく はいやくぎょうちゃ
本則・配役行茶

晋山結制の法要には多くの方のお手伝いが必要です。ここでは諸役の方丈様にお集まりいただき、それぞれのお役をお願いします。また、明日首座和尚の勤める法戦式の大切な「本則」のお話を西堂老師より賜ります。その後、お参りの方も含め、皆でお茶とお菓子をいただきます。

次号では10月6日(日)の行持をご案内します

「KAKA笑の会」

呵々笑い続けて、もう十六年

平成十五年、若い方たち

も参加でき、本堂やお寺

をもっと身近に感じてもらいたいという思いから

『安善寺KAKA笑の会』

は発足しました。名前の

由来は呵々笑う：大きな

声で笑う。家の中でお母

さんが元気で、朗らかにし

ていると、家中が明るい雰

囲気になる、まさに女性

の力強さと明るさを感じ

る名称だと思えます。

名前に負けず劣らず、会

議の度に一品持ち寄りの

お料理は、いつもテーブル

に並びきれないくらいで

す。どこの居酒屋に行つて

もこんな手料理はありません

からね。

過去十六年間・二十七

回開催の中には、「精進・

旬のお料理を楽しむ会」

が七回。東日本大震災に

遭われた方々の炊き出し

(150〜200食)を二

回、十周年記念には、女優

の「五小路子一人芝居」。

中でも県外に住んでお

られるお檀家さんや関係

の方々から来て開催さ

れた「異文化コンサート」

と「三糸の会」。異文化コン

サートの田中ケイ子さん

(日舞・埼玉県在住)からは、

『私が四歳の時に父が他

界、それから母が日舞の

師匠として生活してまい

りましたが、六十四歳の

時に交通事故で踊れなく

なり、後を継ぎ日舞の仕事

を続けてまいりました。

昨年七月、母の三回忌に

安善寺に伺いまして、コン

サートの話しになり、「田

中ケイ子と仲間達の異文

化コンサート」が実現い

たしました。先祖・両親

の菩提寺の本堂で踊らせ

ていただきました(特に

越後獅子と佐渡おけさ

有意義で感慨無量のひと

時でした。』というお手紙

を頂きました。(季刊・四

十八号で紹介済)

三糸の会の小林朝喜勢

さん(お琴・東京都在住)

も母の供養にと、長岡のお

実家の方々まで差し入れ

をして下さる等、会員の方

々は勿論のこと、いろんな

方々に支えられ、毎回、会

が終わるのが午後8時頃

にもかかわらず、終わっ

た後の本堂も会員の皆さ

んが手際よく片付けてく

ださいます。

出演してくださった方

々を囲んで、毎回会員持

ち寄りのお料理をご馳走

になるのも楽しみにして

いることの一つです。

旅立ち

(平成三十一年一月〜二月末日まで)

平塚 良子様 一月三日寂

長岡市今朝白

小林 カウ様 一月廿二日寂

長岡市東坂之上町

重山 恭一様 一月廿八日寂

長岡市西神田

佐藤 紘一様 二月三日寂

長岡市表町

中町 三郎様 二月十四日寂

長岡市長峰町

ご冥福をお祈りします。

お詫びと訂正

平成三十一年正月号(八十四号)、5ページにて掲載の、ご両親の想い出について寄稿していただきました木本喜美子様を木本きみ子様と記してしまいました。訂正してお詫び申し上げます。

ボブの独り言

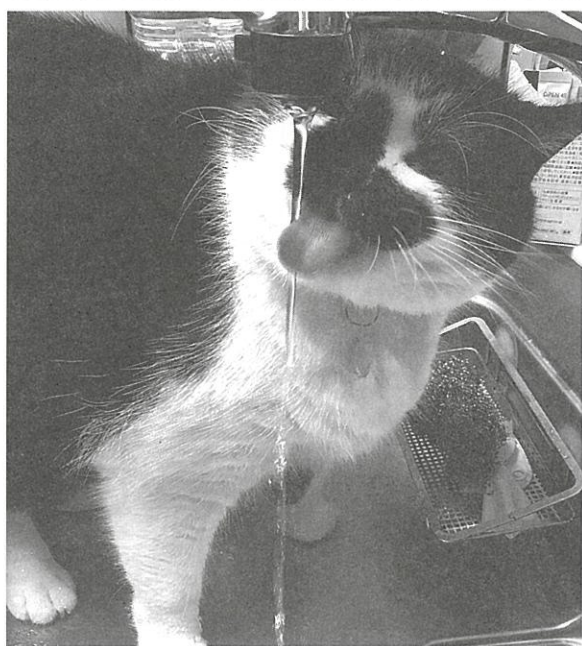
バーバの楽しみ

ボブの独り言

私がお寺の一員になって、およそ十四年くらいがすぎました。その頃ベコが、まだ三か月くらいの私を「ピョンピョンと身軽に高い処を跳びまわっています。そんな姿をみると、私にもあんな元気な時があったんだな」と、この欄にもつぶ

やいてもらっていた事がありました。そんな私も階段の昇り降りが大変になり、あの頃のベコの気持ちがよくわかるようになりました。

私がお寺に來たのは、中越地震の後、新しい客殿が出来た年でした。新しい処を爪で傷つけられ



ないか、障子に穴をあけられないかと、随分心配されていたのを覚えています。話によると、中越地震では、木造の建物と蔵が壊れ、蔵のあとには、副住職が本山の修行を終え、記念にと植えられた枝垂れ桜が立派に育ち、春になるとやさしい色の花を咲かせてくれています。

今年は暖かいのでいつもの年よりも早く花が咲くかもしれませんね。もう何年経ったでしょうか？

孫孫の写真を使得ってバーバは毎月、カレンダーを作っているのです。それをファイルしていると成長がわかって…と言いながら楽しんでるようです。今までは、普段会えない孫の写真が多かったのですが、最近は自薦が多

くなってきました。二人一緒の写真ではなく、自分のカレンダーが欲しいようです。特に下の方が自己主張が強いようですが、幼稚園生活も僅かに、きたようです。

寒くて、町内の子供達はどうしているんだろう？って話しているのが聞こえたかのように、春のようない日々が続いた日、久々に全員集合です。この町内は、全員で九人それもみんな二年生以下の子供達ばかり。子供の足で二十五分位かかる学校まで、どんな光景がみられるのでしょうか？ 楽しみです。 ニヤーン

お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職が答えします）など。
- 嬉しい・楽しい／嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

編集 雑感

今年は雪も少なくて早く春が訪れそうです。四月から新しく始まるテレビ番組も多くありますが、私は平成二十三年から続いているNHKBS「こころ旅」が今年も三月から始まると聞いて放映日が待ちどおしいです。番組を見たことがある方も多数いらっしゃると思いますが、ここで内容を紹介させていただきます。

俳優の「火野正平」が自転車に乗り全国を回り視聴者から寄せられた手紙の中の想い出の地を訪れ、風景を映し出し、その場所を手紙を読む番組です。決して有名な観光地ではなく投稿者の卒業した小学校や昔祖母と生活した土地を訪れます。他の番組にみられる「仕込み」と呼ばれる事前の周到な準備がなく、行き当たり

ばったりの自転車旅で「火野正平」のちよつとシヤイでチャイミングなキャラクターが存分に発揮されています。べっぴんさんにはすぐに近づき話しかけたり、元気なおばあちゃん達に取り囲まれて泡を食って逃げ出したり、それが決して嫌味に感じられないのです。手紙を読むにあたって、手紙の内容が涙を誘う内容であっても、感極まつて涙するようなことはなく、あくまでも視聴者に感情をゆだねているのです。 昨今、顔や声に出してしまい原稿が読めなくなったり声を荒げてしまいうアナウンサーも多いのですが、俳優である「火野正平」はあえて感情を出さないのです。それがまた良い心地を視聴者に与えているのです。

私も旅が好きですが、なかなか時間もなくて行けません。でも「こころの旅」を見て全国にはこういう所があるんだと自分が旅をした気分になてくれるのです。今年七十歳になった「火野正平」が全国を旅することで自分も頑張ろうという気になてくれるのです。ご覧になったことがない方は是非お勧めします。室賀清輝